

学力多層化を 踏まえて考える 主体性の育成

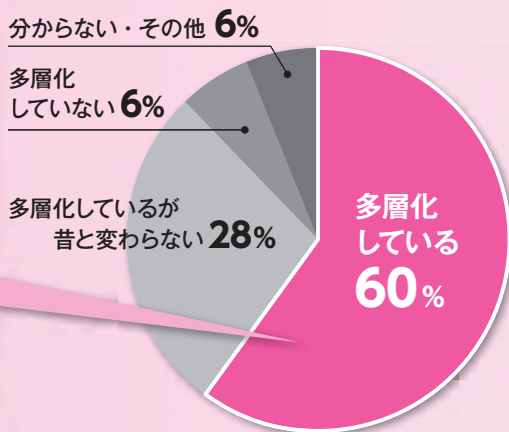
生徒の学力の多層化は、これまでも高校教育の現場において課題とされてきた。

しかし、少子化や新課程実施に伴う教育内容の増加により、今後、多層化がより進んでいく可能性は高い。

一人ひとりの生徒の学力や学びの状況を踏まえて主体性を育てていくためには、

どのような指導が必要なのか。学校事例や対談を通じて考える。

Q 以前に比べて、生徒の学力が多層化していると感じますか



◎学区の中学生が減少して高校入試が易化したため、以前は入学できなかったような生徒が入学してきている (千葉県)

◎学習意欲や姿勢の多層化が、学力の多層化を生んでいると考える。学ぶことが自分の力となることや、学びを通じて人間的な成長を実感する経験がないことが、背景にあるのではないかと (兵庫県)

◎進学率上昇の当然の結果だと思う。多様化する児童、生徒、学生に、教育機関が行う教育内容が旧態依然で、適応できない者が中・下位層を形成している。抜本的な発想の転換が必要だと思う (奈良県)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは、2013年6月にウェブとファクスで実施。有効回答数は64

本号のテーマ

生徒の学力が多層化する中で 生徒が主体的に学びに向かうためには、 どのような指導が必要か？

1 学校の取り組みから効果的な手立てを考える

知的好奇心を高める授業と気付かせる指導で
志望に挑む生徒を育成

広島県立広島中学・高校

【学校事例1 P.6～9】

学ぶ楽しさ、出来る自己を知り
目標に向かい努力できる自信を育む

静岡県立池新田高校

【学校事例2 P.10～13】

2 学校組織としての指導のあり方を考える

学力の多層化を切り口に、生徒の状況と必要な指導を
今こそ、校内で組織的に語り合う

【次代を担うミドルリーダーの提案 P.14～19】

神奈川県・横浜市立桜丘高校

木村 剛



鳥取県立鳥取東高校

福島卓也



3 世界の教育動向から、新たな指導の可能性を探る

教育機会が広がる中、
生徒による「学びのデザイン」を支援する時代へ

【教育環境レポート P.20～21】